

坂本龍一 氏襲った直腸がん

がん社会 を診る

中川 恵一

ほかヒトパピローマウイルスの感染などが原因となる「扁平（へんぺい）上皮がん」です。これは皮膚や体の表面にできるタイプのがんです。

食べ物の通り道でも口から咽頭、食道までは扁平上皮がんが発生します。胃や大腸には「腺がん」と呼ばれる別のタイプのがんができます。

坂本さんは中咽頭がんを放射線治療と抗がん剤の併用（化学放射線治療）で克服しています。確かに扁平上皮が

んは一般的に、腺がんよりも放射線治療が効きやすい傾向があります。しかし20年に診断を受けた直腸がんは、肝臓やリンパ節、肺などに広く転移がありました。

診断より約20年も前の出来事だったはずですが、彼の直腸の正常な細胞から腺がん細胞が発生しました。免疫の網の目を逃れたこの細胞が分裂を繰り返して大きくなりました

た。やがてがん細胞の一部が血管の中に入り込み、他の臓器にも転移したわけです。

がんは診断が可能な1センチ程度に成長するには10〜20年といった長い年月を要します。早期がんは2センチまでと考えて間違いありませんが、1センチのがんが2センチの大きくなる時間は1、2年にすぎません。

ら、絶好調でも定期的にかん検査を受けることが大切です。日本では40歳から毎年、便潜血検査を受けることが推奨されていますが、受診率が低く、精密検査を受けない人も多いのが問題です。

坂本さんが住んだ米国では、大腸内視鏡検査を含めた大腸がん検査が広く行われた結果、直腸がんを含め大腸がんによる死亡が激減しています。坂本さんの場合、早期発見ができなかったのは何とも悔しい思いです。

がんは大きく、3つのタイプに分類できます。①放置しても問題ないタイプ②早期発見が死亡率を下げるタイプ③早期発見が難しいタイプです。大腸がんは胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸（けい）がんと並んで②のタイプのがんの代表で、国も健康増進法のなかで、検診を推奨しています。

坂本さんの死をムタにしてはなりません。

（東京大学特任教授）

音楽家の坂本龍一さんが2023年3月末、直腸がんのため71歳で亡くなりました。私も「イエロー・マジック・オーケストラ」のデビュー当時からファンでしたので、大変残念な思いです。

14年に公表した中咽頭がんに次いで2つ目のがんでした。一部に誤解があるようですが、坂本さんの命を奪った直腸がんは中咽頭がんとは別のがんで、中咽頭がんが転移したものではありません。



イラスト 中村 久美